



vol. 3

発行/2017年10月16日
グリーンコープひろしま理事会
広島市安佐南区緑井1-28-47
TEL(082)831-1503 FAX(082)870-1800
組合員数 20,543人
出資金積立金総額 959,539,644円 (9/20現在)

日々の活動の様子は こちらをご覧ください。 ●グリーンコープひろしま 活動ブログ 「げんきくんのわくわく日記」 http://blog.goo.ne.jp/greencoop-77 ●Facebook: グリーンコープ生協ひろしま https://www.facebook.com/gchiroshima/ ●グリーンコープひろしまHP http://www.greencoop-hiroshima.or.jp/

8月20日(日) 「青少年ネグロス体験ツアー」報告会

会場には、深緑のお揃いのTシャツを着た9人の子どもたちが久しぶりの再会を喜び、とても古くからの友人のような雰囲気でした。プロジェクターの写真を見ながら、子どもたちがツアーの内容と共に感想を話してくれました。ネグロスの青少年と一緒に、かまどで料理をしたり、バナナの苗を植えたり、キャンドルの灯の下で誰にも言ったことがない悩みなどを話して自分自身を見つめる時間を過ごすなど、貴重な体験をしていました。「フルーツを食べようと思ったら蟻が出てきて、払いのけ、ドキドキしながら食べた」「ココナッツミルクが胡瓜のような味だった」などと楽しそうに話している子どもたちを見て、感性が豊かなこの時期にたくさんの事を感じ取ってくれた旅だったのではないかと思います。不安だらけで出発した子どもたちが「絆を育むための旅だった」と言えるだけの深い絆が生まれた時間となったことが伝わりました。これらの体験がこれから子どもたちの中でどう育っていくのか、とても楽しみに思える報告会でした。(理事会 木上)

参加者報告 voice 「ネグロス体験ツアーを振り返って」 ●ツアー日程:2017年7月22日(土)~2017年7月29日(土)

○浜田悟志さん / 高校1年生 (西支部)

私は正直、このツアーに参加することに迷いがありましたが、母が強く薦めたことや外国に行くことには興味があったので行くことに決めました。日本を発ちマニラに1泊して、2日目にネグロス島へ飛行機で移動しました。空港に着くとすでに大橋さんたちが待っていて、車で兼重ファームに向かいました。着いてすぐ昼食がありました。日本とは違い、ハエが普通に周りを飛び回っていることにびっくりして、このまま1週間も生活していけるか不安になりました。初めてネグロスの人々と顔を合わせをしたときは、話しかけるのに抵抗がありました。

3日目は、ティソン村に行きました。村の人たちが着いてすぐココナッツミルクを出してくれました。ココナッツミルクは人生で一回は飲んでみたかったのでもいい経験になりました。夕食はグループで作りました。数少ない材料の中でとてもクオリティの高い料理をどのグループも作っていて凄かったです。味もとても良かったです。とても楽しい時間を過ごしました。

次の日、早朝にバナナの苗を植えに行きました。自分はバナナの袋かけまでやらせてもらいました。生産者の苦労が分かり、とてもいい体験になりました。そして村にお別れをして私立のラサール大学に移動しました。キャンパスの中はとてもたくさんの植物があって興味深かったです。そこでプールに入ったり、ゲームをしたりして交流をしました。その頃にはハエも気にならなくなり、みんなとも仲良くなって、やっと自分の気持ちが変わってきました。言葉の壁もなくなり、誰でも気軽に話せるようになりました。このツアーの中で一番印象に残ったのは、大学でやったワークショップです。「人生の木」を書いてみんなの前で発表したことや本音で語り合ったことなど、とても濃い内容でした。劇作りの時はみんなにアドバイスをもらいながら自分の役が何とか完成しました。フィリピンの人々の劇は、フィリピンが抱えている現状や問題が分かりやすくてすごかったです。日本の文化や問題についての私たちの劇も見事成功しました。

そして次の日にみんなと別れ、バナナを日本に送る会社の見学に行き、近くのショッピングモールでお土産を買いました。

次の日の朝早く出発して日本に帰りました。このツアーで学んだことは、命を大切にすること、そして人に感謝することです。そして人生で2番目に尊敬する人に出会いました。料理人のベッティーさんです。ベッティーさんの言ってくれた「大きい男になれよ!」という言葉は一生忘れないと思います。

大橋さんをはじめ、お世話になった現地の皆さん、APLAの寺田さんをはじめ、グリーンコープのスタッフの皆さんありがとうございました。高校生のみんな、一緒に活動をしてくれてありがとう。



このツアーのことは、一生忘れることはありません。たくさんのいい経験をありがとうございました。

○竹元育実さん / 高校2年生 (中央支部)

私は、この夏、青少年ネグロスツアーに参加しました。グリーンコープからは9人、ネグロスからは11人のユースたちが参加しました。ネグロスでは、毎日様々なワークショップを通して、お互いのことを知り、協力することの大切さや文化の違いなど、たくさんのことを学びました。特に、フィリピンと日本の文化の違いには驚くことばかりでした。日本では当たり前だと思っていたことが、そうではないのだということが沢山ありました。ネグロスユースのなかには、家庭の事情で学校へ行けなかったり、毎日三食のご飯を十分に食べられなかったり、すべての家事をまかされている子もいました。このようなことが現実にあるということを目の当たりにして、私は、学校に通えて、部活や自分の好きなことが出来て、毎日ご飯をお腹いっぱい食べる事が出来て...本当に幸せなことだと感じました。

そんな環境にあっても、ネグロスユースたちはみんなとても親切で、思いやりがあって、まるで兄弟のように接してくれました。周りのことをよく見ていて、困っている子がいたら必ず助けてあげるなど、尊敬するところばかりでした。



ティソン村での民泊体験も、忘れられない思い出となっています。ティソン村は、バコロド市から車で約一時間ほど離れたところにある小さな村です。私たちの到着を村の人たちがあたたかく出迎えてくださいました。そこでは、ネグロスユースと一緒に夜ご飯を作り、夕食後には村の人たちとダンスや歌で盛り上がりました。

私は、ティソン村の小さな子どもたちと遊んだことがとても心に残っています。初日は、私達を警戒していましたが、翌日にはダンスを教えてくれるほど仲良くなりました。

ある女の子とは、お互いだたどしい英語でがんばって会話しました。村を出発するときには、子どもたちが最後まで見送ってくれて、お別れするのがとても寂しかったです。ネグロスでの体験はすべてが新鮮で、泣いたり、笑ったり、驚いたり...今までこんなにたくさんのことを短期間で学ぶことはないほどの充実した一週間でした。出発前は、ネグロスの子だけでなく、日本から一緒に行く子たちとも仲良くできるか不安でしたが、気付けばみんなが家族のようになっていました。



一緒に行った日本の仲間やネグロスの友人と必ずまた会いたいです。このような貴重な機会を与えてくださり感謝しています。

「不戦のゼッケンを背に、平和を願って」

共生・平和長崎自転車隊の取り組み 8月8日(火)～9日(水)

グリーンコープの平和の取り組み「共生・平和長崎自転車隊」に参加しました。毎年、福岡柳川から長崎の爆心地公園まで『不戦』を掲げ、平和を願って、自転車で走行しています。当日は悪天候で、予定した行程全てを自転車で走れなかったため、子どもたちは少し残念そうでしたが、いのちを大切にするために、安全が最優先されました。今年は韓国から中学生を含む30人(ウルマウルクムトのみなさん)が参加され、一緒に走行しました。韓国と日本の子どもたち、市民同士の交流にはとても大きな意味があると感じました。辛く悲しい歴史が横たわっている両国間ですが、最終的には人と人との連帯こそが平和へとつながっていくと信じたいと思いました。世界から争いがなくならない中、『不戦』という意思を貫いていくために、あらためて平和の尊さをかみしめる取り組みになりました。

(理事長 熊野)



爆心地公園にて『平和のつどい』を開催しました。11時2分 黙祷を捧げ、『青い空は』を合唱しました。

広島土砂災害被災地支援活動報告

8月20日(日)

～広島土砂災害慰霊行事～

広島土砂災害発生から3年を迎え、ひまわり広場で行われた復興イベントに参加しました。

土石流の跡に巨大な砂防ダムが建設され、道路や被災した住宅の復旧も進んでいました。

当日は、グリーンコープの組合員のみなさんからの支援金で建てられた慰霊碑と壁画の前で行われた追悼式に、私も参列させていただきました。

慰霊碑に手を合わせ、ご冥福を祈りました。二度と犠牲者を出さないためにも、復興に向け防災に強いまちづくりを目指してほしいと思いました。

そのあとで行われたイベントでは、集まった方々に冷たい産直びん牛乳、冷凍マンゴー・パイナップルなどを食べ



ていたとき、ボランティアの方々と一緒に楽しいひとときを過ごしました。

(理事会 坂本)



8月31日(木)

～復興交流館モンドラゴン見学～

被災された方たちが憩いの場として利用し運営をする、復興交流館モンドラゴンに見学に行きました。

モンドラゴンの訪問は今回で2回目でした。1回目は約1年半前のモンドラゴン開館式の時で、周囲は災害の酷さを感じる、生々しさがまだ残っていました。崩れてきたであろう、岩が積み重ねてあったり、アパートの壁には土砂で汚れた跡があったり、道路にも小石や砂がたくさんあって怖いなど感じるような様子でした。今回の訪問では、新築された家や洗濯物が干してある家がたくさんあり、日常の生活が戻っていると感じました。かつて積み上げられていた岩もなくなって、畑になっていて野菜ができていました。モンドラゴンはお好み焼きを販売し、災害を記録した写真などが展示されています。また、開館以降に開催された学習会や講座の写真がたくさん飾ってあり、参加者の笑顔がこのモンドラゴンの存在価値を物語っていると思いました。

おいしいお好み焼きをいただいた後、被災当時の様子や今の思いなどを、館長の畠堀さんと副館長の松井さんから伺いました。1時間に100ミリの雨とはどういうものか。それはシャワーを顔に直接かけられている感じでも息苦しいそうです。呼吸するのもやっとなのではないかと想像しました。また、閉じ込められて家から出られなくなった人に「必要なものはないか?」と聞き、届けられたとのこと。自らも被災されている状況の中、他人を思いやる心を忘れていない、その優しさに心を打たれました。そして、自らの体験を話すことで防災意識を高めていきたいと話される姿に感動しました。

(理事会 桑田)



9月7日(木)

グリーンコープ
産直びん牛乳学習会

「知って得する!!おいしい産直びん牛乳」

産直びん牛乳をもっと知りたいという事で、メグミルクの佐藤さんと竹脇さんにお越しいただきました。グリーンコープの産直びん牛乳は、先輩組合員である篠原晴美さんがヨーロッパまで勉強に行かれ、試行錯誤を重ねて出来上がったということを知ると、感謝して飲まなければならないと思います。先輩組合員の想いを私たちが受け継いで語り続けなければならないと思いました。

産直びん牛乳が美味しいのは、殺菌温度(72度15秒)や牛の餌や飼育する環境を一番に頭に思い浮かべますが、それ以外にも工場の製造ラインの工夫もかなりのこだわりがありました。牛乳をパイプに送り出す時に生乳を傷つけないロータリーポンプを使用、業界で当たり前に使われているクラリファイヤー(遠心分離機)を使用せずメッシュを代用していること、そして、脂肪球を砕く(パスのみ)ホモゲナイザーは9.0MPa(市販の牛乳は15.0MPa)で均質化されています。開発から、飼育、生産に至るまで、こだわり抜いたびん牛乳だということがよくわかりました。

グリーンコープの産直びん牛乳は、誕生当時よりも注文数が減っていて、工場も午前10時過ぎには製造が終了してしまうということで、地域組合員対象のびん牛乳工場見学は最近では難しくなっていると聞いています。そんな中で、工場に行かなくても広島に居ながらにして工場見学に行った気分になれる学習会でした。

(理事会 高尾)

8月25日(金)

エスケー石鹸(株)に工場見学に行ってきました!!

カタログ24号で新登場した洗濯用粉せっけん“GCお洗濯のしゃぼんナチュラル”を製造する埼玉県川口市にあるエスケー石鹸(株)へ行って来ました。エスケー石鹸は大正7年創業、来年で100周年を迎えます。4代目社長・倉橋さんの「粉せっけんは絶対に守っていかないといけない。エスケー石鹸の理念は『誠実』です」とお話しくださったのが心に残りました。

原料の植物油(パーム油など)を液体の状態を保持し、アルカリ剤(苛性ソーダなど)と混ぜ攪拌し熟成させ、水分を調整したものが固形せっけんや粉せっけんになる工程を見せていただきました。ほとんどの工程を機械が行い、出来上がった商品は人の目で確認して箱詰めされていました。

せっけん工場は夏暑く、冬は冷えるそうで、とても大変な環境で働かれていることを知りました。私たちがせっけん生活を送ることができるのは、エスケー石鹸の方々の努力があってこそだと思い、とても有り難く感じました。そんな愛おしい“せっけん”をもっともっとたくさんの人に使ってもらいたい、無くしてはならないと思いました。

新しく登場した“GCお洗濯のしゃぼんナチュラル”は溶けやすく、とても使いやすくなっています。せっけんの量は水の硬度や洗濯物の汚れ具合などで異なります。自分のさじ加減で色々試してみ、ご家庭の適量『ベスト』を見つけてほしいです。

(くらし委員長 田邊)



産地見学に行ってきました!! ~Visit to production area.~

8月17日(木)~19日(土)

りんご三産地視察・交流会

信濃五岳会

ながの農協飯綱

八ヶ岳会 (長野県)

りんごの早期予約の取り組みの前に今季の生育状況を知り、組合員の皆さんへお知らせしたり、生産者の方との「顔の見える関係」を深めるために、毎年訪問しています。

それぞれの産地の圃場で、最盛期の早生桃の出荷の様子やブルー・ネクタリン・洋梨が実る様子を見学し、りんごの種類や特長、作柄・病害について生産者の皆さんからお話を伺いました。

今年は日照不足が影響し、平年より桃の出荷が遅れているようですが、りんごは例年通りに届く予定です。腐乱病・黒星病・せん孔細菌病などの被害がある圃場もありましたが、減農薬で作っているの、ある程度は覚悟されているようでした。そして「できるだけ安心・安全で、美味しい果物を届けたい」と話されていました。もぎたての桃・ブルー・りんごを試食

させていただき、今年も、美味しい果物が組合員の元へ届くことを確信しました。猛暑や天候不順で苦勞されている生産者の方々に応援するためにも、りんごをいっぱい食べましょう!!

(理事会 大窪)



8月17日(木)

みかん産地視察・交流会

肥後七草会(熊本県)

熊本県不知火町、肥後七草会の山川さんのみかん園に見学に行きました。穏やかな町並みに、空は快晴 the南国といった感じでした。強い日差しでとても暑かったです。

みかん園は主に極早生、早生を生産されており、8月中旬からの作業は草取り、摘果作業が中心となるそうです。ただ、夏の暑い時期は、11時~17時の時間帯は暑くて作業ができないそうです。今年はお盆を除き、雨が少なめだったため、多くのみかん園では手作業で水やりをされたそうです。

7月に開催した『おもちゃのカンヅメ』の時は、ピンポン玉くらいの大きさで固くむくこともできなかったみかんが、小玉サイズのみかんに育っていました。試食させて頂きましたが、今はまだ酸味が強く、とても酸っぱかったです。7月後半から乾燥、8月前半からは太陽の日差しをいっぱい浴びて甘みと酸味が増し、11月には美味しいみかんとなり、私たちの所に届くそうです。この日に試食させていただいたあの酸っぱいみかんが、たくさん日差しを受けて、大きく甘酸っぱいみかんになり、自宅に届けていただけたらと思うと、今から本当に待ち遠しく思います。

(理事会 金子)



「水俣病展2017」が熊本で開催されます。

開催期間 2017年11月16日(木)~12月10日(日)
展示会場 熊本県立美術館 分館全館

水俣病って知っていますか? 学生時代に社会の教科書で学んだという方もおられるかもしれませんが、原因不明の神経疾患が発生し、公式に認知されたのは1956年。熊本県水俣市にあるチッソ(株)の工場廃水に含まれたメチル水銀で汚染された魚介類を、そうとは知らずに食べた人の神経中枢が侵され発症する中毒性疾患。今も、苦しんでおられる患者は多く、新たな申請も続いている状況は解決したとは言えません。今年水俣病の公式確認から61年目となります。グリーンコープは水俣フォーラム(水俣展の開催を軸に活動を続けている認定NPO法人)とともに熊本県で「水俣病展2017」を開催します。私たちの仲間である、グリーンコープくまもとのメンバーが中心となり、2年以上かけて準備を進めてきました。「水俣病展2017」は、社会の在り方、生き方について私たちに問いかけてくれると思います。生命(いのち)より経済や企業利益が優先される社会が生み出した公害といえる水俣病。水俣病について、改めて理解を深め「いのちの大切さ」について考えてみませんか。

(副理事長 反岡)

前売り券は、8月28日~11月11日共同購入申込書で注文できます。

9090 前売券 500円(グリーンコープの組合員及び高校生以上のご家族)

9089 前売券 200円(小学5.6年生と中学生。小学4年生以下のお子さんは無料です)

当日券(組合員価格)もあります。

グリーンコープの組合員及び高校生以上のご家族800円(一般価格1200円)

小学5.6年生と中学生 300円

会場の当日券販売窓口で組合員証をご提示ください。同伴の方も組合員価格でご入場できます。

カンパにご協力ください

皆様からのカンパが「水俣病展2017」の運営を支えます。

カンパは共同購入申込書で受け付けます。

受付期間 8月28日(月)~11月11日(土)

申込番号 9092 1口 200円

9095 1口 500円

国境を越えた子育て支援
ファイバーリサイクルの取り組みに参加しませんか？

パキстанは貧富の差が激しく、学校に通えない子どもたちがたくさんいます。ゴミの集積場のような場所に住み、子どもたちは貴重な労働者とみなされ、一日中働かされています。このような子どもたちが学校で学ぶことで、文字や計算・技術を習得し、社会で自立して生きていくことが出来るようにと、現校長のムザヒル先生が、スラム地域に無料で通える学校「アル・カイル・アカデミー」をつくりました。グリーンコープはこの学校を支援しているNPO法人日本ファイバーリサイクル連帯協議会(JFSA)と出会い、ファイバーリサイクルの取り組みをスタートさせました。始めは千葉のJFSAに衣類を送っていましたが、2010年、福岡にファイバーリサイクルセンターをつくりました。

提供いただいた衣類の8割をコンテナに積んで、船便で約1ヶ月かけてパキスタンへ送り出しています。衣類はパキスタンの古着市場で売られ、24トンの売り上げで約250人の子どもたちが1年間「アル・カイル・アカデミー」に通うことができ、国境を越えた子育て支援となっています。

また、衣類の2割は国内販売され、売り上げはファイバーリサイクルセンターの運営のための経費になります。衣類の仕分け作業は、生活困窮者の自立支援施設「抱樸館福岡」の入居者を中心に、社会で働く前の準備のための就労訓練の場となっています。この取り組みを支えているのは組合員の皆さんから送られてくる衣類です。ご家庭で使わなくなった衣類で状態のいいものがあれば是非、ファイバーリサイクルセンターまで送ってください。

(地域福祉委員 仲村)

衣類の送り方

衣類の発送準備(重さ25kg以内、大きさ:タテ+ヨコ+高さ=160cm以内)をしてから、共同購入申込書やGcwebで「ファイバーリサイクル専用送り状」を購入してください。

- 申込番号 9988
 - 代金 600円(税込み)/1 梱包
- 申込から数日でヤマト運輸が専用送り状を持って集荷に伺います。



エコdeグリーン
私の暮らし術

家事上手なFさん直伝の暮らし術です。いらなくなった布を小さなフォークの先に巻きつけます。それにアルカリウォッシュスプレー(アルカリウォッシュ小さじ1に水500ml)をほんの少し湿らせて、リモコンやキーボード等の細かい部分を拭くと... (驚)

一見きれいそうに見える場所にも汚れが潜んでいますよ!

(くらし委員 山本)



くらし
全体会

私のグリーン
コープ
~ my green cooper

11月

- 1日(水) 東広島支部おすすめ委員会「めざせ素肌美人〜グリーンコープの化粧品について知ってみませんか〜」(東広島支部)
- 2日(木) 福山支部理事会「レモン産地見学バスツアー(仮)」(尾道市瀬戸田)
- 7日(火) 中央支部備北地区委員会「布ナプキン学習会」(きんさいセンター予定)
- 7日(火) 中央支部理事会「きんさいぐりーん3周年まつり」(きんさいぐりーん)
- 9日(木) 西支部地域福祉委員会「認知症ケア〜介護の現場より〜」(げんきくんひろば)
- 9日(木) 中央支部北部地区委員会「グリーンわいわいカフェ」(可部公民館)
- 10日(金) 福山支部東部地区委員会「グリーンわいわいカフェ」(福山支部)
- 13日(月) 中央支部くらし委員会「チョコレートワークショップ」(中央支部)
- 15日(水) 東広島支部くらし委員会「ヘナの学習会」(東広島支部)
- 15日(水) 福山支部理事会「子ども料理教室」(福山支部)
- 16日(木) 福山支部理事会「子ども料理教室」(福山支部)
- 21日(火) 西支部東部地区委員会「彩生舎アロマ学習会」(げんきくんひろば)
- 21日(火) 福山支部おすすめ委員会「おうちでぶちパーティー年末年始おもてなしお料理会」(尾道市民センターむかいしまこころ)
- 22日(水) 中央支部地域福祉委員会「いま知りたい!お葬式・お墓事情」(中央支部)
- 24日(金) 中央支部東部地区「グリーンわいわいカフェ」(二葉公民館)
- 29日(水) 西支部中部地区委員会「グリーンわいわいカフェ」(楽々園公民館)
- 29日(水) 中央支部理事会「椿き家工場見学」(三原市本郷町)
- 29日(水) 東広島支部理事会「Welcomeカフェ」(広まちづくりセンター)
- 30日(木) 福山支部地域福祉委員会「今知りたいお葬式・お墓事情〜身近な人が亡くなった時どうする〜」(福山支部)

行事予定

12月

- 5日(火) 中央支部おすすめ委員会「彩生舎学習会」(中央支部)
- 6日(水) 西支部理事会「Welcomeカフェ」(楽々園公民館)
- 12日(火) 西支部くらし委員会「チョコレートワークショップ」(げんきくんひろば)
- 14日(木) 中央支部中部地区委員会「れんこん料理会」(会場未定)

※行事名、場所は変更になる場合があります。詳しくは、配送チラシをごらんください。

